



中丹

農業改良

第34号

# 普及センターだより

## プロに聞く「中丹農業」



## 害虫から小豆を守る



## 良いえびいもを作るコツ



## 安全、ヨシ! 命を守る知識



京都府中丹広域振興局 農林商工部

中丹東農業改良普及センター

〒623-0012 綾部市川糸町丁島10-2

TEL.0773-42-2255

e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

中丹西農業改良普及センター

〒620-0055 福知山市篠尾新町1-91

TEL.0773-22-4901

e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

発行

2025年  
(令和7年)

“築いていこう 差別のない 明るい社会”

# 中丹地域で取り組む普及活動の重点計画

令和6年度～8年度で取り組んでいる、4つの重点計画について報告します

## 1. 需要と環境に配慮した 水田農業への支援

①「京式部」や「祝2号」をはじめとする京都府水稲オリジナル品種の栽培技術の定着、②中丹地域の特産物である小豆の収量確保、③緑肥作物の活用や有機栽培に繋がる取り組みなど環境にやさしい水稲栽培技術の確立、の3つをテーマとして活動しています。

令和6年は水稲の栽培前講習会や現地検討会を開催し、品種や気候に応じた栽培管理の重要性を共有することができました。小豆は夏期の高温で収量が低くなりましたが、管内2箇所で開催した講習会を開催し、害虫の特徴と防除の注意点について強調したことで、それぞれのほ場で防除が適切に実施されました。

次年度も気象変動に対応できる安定した収量・品質確保に向けた取り組みを進めていきます。



「祝2号」現地講習会で品種の特徴を理解する



小豆栽培講習会で害虫トラップを説明

## 2. 未来に繋ぐ京野菜産地づくり

中丹管内では、万願寺甘とう、紫ずきん、えびいも等、人気の高い京野菜が生産されています。消費者ニーズに対応できる安定出荷と産地維持のため、①万願寺甘とうの高収量生産技術の普及と新規生産者に向けた技術指導、②えびいも秀品率向上に向けた技術普及、③紫ずきん省力栽培技術の確立を柱に活動を行っています。

今年度は、引き続き新規生産者向けの「万とうゼミ」の開催や、万願寺甘とう栽培環境モニタリングで明らかになった最適栽培条件の普及に努めています。

新たに紫ずきんでは、綾部市上八田町で労働負荷の高い収穫調製部分を機械リース導入した省力化モデルの実証を進めています。また、夏期高温による低収量を解決する技術の研さんと普及も進めていきます。



「万とうゼミ」で先輩生産者から土づくりを学ぶ



脱莢機で枝豆の出荷調製を行う

# 中丹地域で取り組む普及活動の重点計画

令和6年度～8年度で取り組んでいる、4つの重点計画について報告します

## 3. 新たな農業従事者の確保 「やってみよう中丹農業」

地域農業や農村を維持するためには、多様な人材の農業への参画が必要です。

雇用や就農希望者の受け入れに意欲的な農業者を対象に、農家情報シートの作成を支援しました。現在22経営体、1協議会が作成し、就農相談窓口等で活用されています。

また、農家情報シートを作成した農業者の協力の元、就農希望者等に対して、農業の魅力体験研修会を4回、インターンシップ(農大生対象)を1回、就農相談会1回中丹を1回開催し、好評でした。

次年度は「就農するなら中丹」をキャッチフレーズに、新たな担い手の確保に向けた取り組みを進めていきます。農家情報シートの作成を希望される場合は、普及センターまでお問合せください。



収穫体験を通じ農業の魅力を発信



農業者のPRポイントをまとめた農家情報シート

## 4. 話し合いと実践による 持続可能な地域づくり

集落営農組織などでは、集落の農地を守るために様々な活動に取り組んでいます。

米や麦、豆類を主作物としている営農組織では、大型の農業機械による作業が不可欠です。しかし農業では毎年全国各地で300件前後の農作業中の死亡事故が発生し、就業人口10万人当たりの死者数も増加傾向にあります。

そこで普及センターでは営農組織の役員に働きかけ、機械作業を行うオペレーターが安全に安心して作業を行えるように、農作業安全講習を8組織で行ってきました。

今後は、自発的かつ定期的な農作業安全講習に繋がるよう、啓発活動を続けていきます。



営農組織における農作業安全講習



ドローンによる水稲のは種作業を見守る

## □地域で活躍する農業士

綾部市 四方 英幹 ひでき さん

綾部市小西町で、12年前に就農し、茶、水稲、万願寺甘とうを栽培しています。

特に力をいれている茶栽培は、手をかけた分だけ良いものが収穫できるため、とてもやりがいがあります。「日本茶インストラクター」の資格も持つており、綾部市のお茶のイベントでは玉露の入れ方教室を行い、綾部の茶の魅力をPRしています。普及センターの協力を得て、昨年、農福連携に取り組みました。福祉事業所の利用者の方々が、茶園に生える雑草を引き抜いてくださいました。熱心に作業をしてください、人手不足に悩む当園は大いに助かりました。

これからも、地元綾部の農地を守りながら、高品質の農産物を作っていきたいと考えています。



指導農業士 四方さん

## □『担い手養成実践農場研修』修了者に聞く(就農準備型)

福知山市 青田 泰子 さん

「お母さんのはんが一番美味しい」と感じて、幼いころから料理好きとなり、材料である野菜にも興味がわきました。貸農園での野菜栽培、農業法人での就労を経て、実践農場研修制度で令和2年に三和町で研修を始めました。

当初は有機農業希望だったものの、普及センターからアドバイスを受け、中丹地域で栽培が盛んな万願寺甘とうを経営の柱として、令和4年に新規就農しました。

「美味しいものを作りたい」という思いを基本に、万願寺甘とう以外にも、えびいもや直売所向けに多品目の野菜栽培に取り組んでいます。

農業や農村での暮らしには多くの気づきがあり、自らの成長を実感しています。これからも夫婦で様々なことに挑戦を続けていきます。



えびいもの管理作業中の芦田さん

## □ 農業の魅力を伝えたい

～担い手養成実践農場研修中～

舞鶴市 村田 <sup>やくし</sup>薬師 さん



技術指導者(奥)から指導を受ける村田さん(手前)

農業の魅力をより多くの人に伝えるため、就農を志しました。令和6年4月から、舞鶴市与保呂で技術指導者による指導を受けながら、万願寺甘とう栽培の研修を行っています。

研修中は栽培管理方法や病害虫対策などで試行錯誤の連続ですが、「頑張りすぎないこと」をモットーに深く悩まず、技術指導者や地域の農家、家族に力を借りるようにしています。

目標は、永くこの地域で農業を続けていくこと。独立・自営就農に向けて、栽培技術の習得に励みます。

## □ 地域を守る法人

福知山市 一般社団法人

Farm SASUGA



稲刈りに集まったFarm SASUGAのみなさん

福知山市私市地区で営農する「一般社団法人Farm SASUGA」は、「営農組合SASUGA」が、令和6年3月に法人化した集落営農組織です。

現在は水稲9haを中心に、豆類・クリなども栽培しており、生産物は主にJAへ出荷し、土日の地元朝市でも販売しています。

法人化によって認定農業者の要件を満たすことができました。地域の農家が減少する中、今後も農地を受け入れ、次世代農業者の育成にも取り組みたいと思っています。

## □ スマート農業

～ドローン利用で大幅な省力化の可能性を探る!～

綾部市 志賀郷北部農産株式会社



志賀郷北部農産の方々とドローンは種作業関係者

綾部市の志賀郷北部農産株式会社では、経営面積約39haで水稲や小麦、小豆の栽培を行っています。将来の高齢化による作業オペレーター不足を見据え、イネWCS用(※)の水稲ほ場約30aで、ドローンによる直は(※)栽培試験を行いました。育苗や田植作業を省略できる反面、は種前後の水管理や除草剤施用のタイミングなど、移植栽培とは異なる管理が必要です。

慎重に初期管理を行った結果、移植栽培と遜色なく生育し、収穫をすることができました。役員は確かな手ごたえを感じており、来年度の栽培規模拡大に向けて弾みが付きました。

※イネWCS(稲発酵粗飼料): 稲の出穂後に実と茎葉を一体的に収穫し発酵させた飼料

※直は: ほ場に直接種をまく栽培方法

## □ 誰もが楽しめる農園づくり

舞鶴市 ブルーベリーバレーまいづる

とある  
児玉 亘 さん



ブルーベリーの管理作業を行う児玉さん

高齢化や人口減少が著しい舞鶴市室牛区で、地域活性化を目指してブルーベリーの摘み取り園とハーブ園を令和6年6月に開園しました。

高齢者や体が不自由な方が安全に移動できるよう、京都府福祉のまちづくり条例を参考に園内の傾斜地のスロープを設計し、農林水産業労働力確保対策事業の補助金を活用して通路とスロープの舗装を行いました。

お子さんに重度の障がいがある方からは、「近隣にこのような施設がなかったので、子どもと一緒に楽しい休日が過ごせた」と喜ばれました。

## 高温対策実証

令和5年度の記録的な猛暑の影響により、農産物等の生育不良による収量減少や品質低下等、多くの農業者の経営に大きな影響を与えました。高温を含め過去にない極端な気象現象は今後も継続的に発生することが想定されています。

そこで普及センターでは、実証ほを設置し、高温環境に適応した栽培体系の構築を図るため、高温対策実証を行いました。

### 水稻 ～追加穂肥の効果確認～

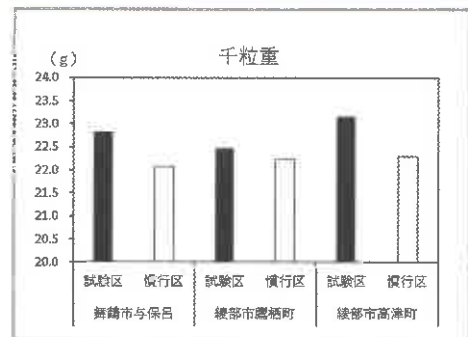
近年、夏期の高温の影響で、米の品質低下が問題となっています。特に、基肥一発型施肥体系では生育前半に高温条件で推移すると、登熟期に肥料切れを起こしてしまい、白未熟粒の発生原因になります。

そこで、他県で肥料切れを起こさないとして指導されている、出穂の7～10日前の追肥を令和5年度から実証してきました。

この2年間の実証の結果、千粒重や整粒率の向上が認められました。効果が劣る調査水田もあるため、継続して検証していきます。



葉色調査の様子



千粒重グラフ

### 紫ずきん ～高温による害虫発生時期のずれに対応した防除体系の確立～

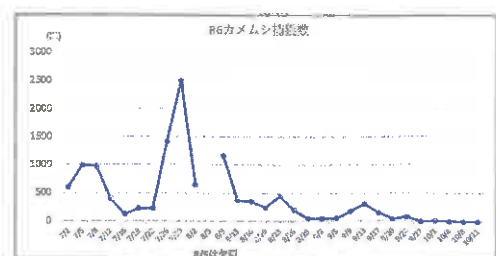
近年、夏期の高温期間が長くなったことにより、害虫発生時期が変わり、基幹防除とのずれが生じることが懸念されます。

そこで、綾部市新庄町のほ場にトラップを設置し、カメムシ等の発生状況を調査しました。調査を開始した6月下旬からカメムシの発生数は多く、7月下旬の最大時には令和5年と比較して30倍以上になりました。

普及センターでは技術情報の臨時号を発行し、害虫への注意と防除の徹底を呼びかけました。今後は調査結果をもとに次年度以降の防除暦等を検討していきます。



LED防蛾灯「モスバリア®」を設置



カメムシ捕獲数グラフ

## 京都府オリジナル酒米「祝2号」 ～新品种への全面切り替え始まる～

水稻新品种である「祝2号」は京都府オリジナルの酒米品種で、大粒・低タンパク質で酒造適性が高い品種です。令和6年度に従来の「祝」から全面的に切り替えられました。

中丹地域では今年度33ha栽培され、生産者からは「短稈で非常に作りやすい」と好評です。

普及センターでは、ほ場の巡回や生育調査、講習会を実施し、収量・品質をさらに向上できるように支援を行います。



出穂期を迎えた祝2号

## 全国茶品評会 かぶせ茶の部 通算16回目 産地賞受賞!

今年度静岡県で開催された第78回全国茶品評会において、かぶせ茶の部で綾部市が産地賞を受賞しました。中丹地域では通算16回目の受賞です。さらに、京都府茶品評会ではかぶせ茶の部で有限会社両丹いきいきファームが1等1席を受賞しました。各種品評会で中丹地域の生産者が多数上位入賞され、両丹茶の品質が高く評価されました。



表彰式での綾部市茶生産者のみなさま

## 農作業体験授業、 中丹地域で進行中

子供たちに地域農業を知ってもらうため、夜久野小学校1～4年生の児童47名が夜久野町の株式会社ファームきぬがわで食育の出前授業と給食の材料になるニンジンの収穫体験を行いました。

また、今年度は普及センターのマッチングにより、福知山市の2経営体、舞鶴市の1組織が、近隣の小中学生を対象に農作業体験を実施しました。



ニンジン収穫を行う夜久野小学校児童

## 農大生が農業士の経営を学ぶ

中丹地域農業士会(30名)と京都府立農業大学校との共催で、学生が就農に必要な知識や情報を得ることを目的とした現地見学会を毎年開催しています。

令和6年11月1日、農業士と学生23名がバスに同乗し、福知山市の農業士3名の農業経営を見学しました。てん茶工場の見学、樹上完熟ぶどうジュースや無肥料・無農薬の小麦パンの試食、三和荘での昼食や交流会などを通じ、地域農業への理解と農業士との交流が深まりました。



無肥料・無農薬農業と六次化について学ぶ

# 普及センター掲示板



## 獣害対策



～獣を寄せ付けない～

獣害対策と聞くと、金網柵や電気柵などの防護柵の設置、または銃猟などの駆除を思いつく方が多いと思います。

さらに効果的に被害を軽減するためには、集落の餌場としての価値を低下させ、山際の草刈りで獣をほ場に寄せ付けない対策の併用が必要です。

放置されている果樹、稲刈り後のひこばえは獣にとってはごちそうとなります。地域ぐるみでの伐採や、栽培後の秋耕起を行いましょう。



センサーカメラがとらえたシカ

## 農業応援隊を 活用ください

中丹地域農業応援隊は、農業を営む方の経営改善や所得向上を支援しています。

普及センターでは、従来の農業技術・経営相談に加え、六次産業化や農商工連携を考慮される方の相談についても、随時受け付けています。

京都府のホームページで、補助事業や就農支援制度について紹介している「R6年度京の農業応援隊伴走支援ハンドブック」を閲覧できます。是非ご利用ください。

こちらから  
閲覧できます



乗用型トラクターの転落・転倒対策



## 徹底しよう!

農業機械の転落・転倒対策

- ✓ シートベルトや安全キャブ・安全フレームをしよう!
- ✓ ヘルメットを装着しよう!
- ✓ 危険箇所の注意、カーブ区間の減速もしよう!



農業機械の転落・転倒対策

## 農作業安全



農作業による事故は非常に多く、中でも乗用型トラクターによる事故は6割を占めます。乗用型トラクター作業で注意する3つのポイントを守り、農作業事故を防止しましょう。

## 京都府農山漁村伝承優秀技能認定者 「農の匠」に認定

伝承技能登録の内、極めて希少価値が高く優秀な技術者を認定しています。

まさのぶ  
**大石 昌轟**さん(舞鶴市)  
技能名「万願寺甘とうの栽培」

施設栽培長期穫りに適した整枝・せん定技術、生育に応じた肥培管理技術、徹底した栽培環境改善による高い単収を実現しました。

担い手養成実践農場や地元高校の出前授業を通じて次世代の農業者への技能伝承に取り組まれています。



## 普及センターだよりのバックナンバーをwebで閲覧

中丹東農業改良普及センターのウェブサイトで、平成16年発行の第1号から昨年発行の第33号までの普及センターだよりを閲覧できます。懐かしい記事もありますので、是非ご覧ください。



“農業はラベルをよく見て、安全に使用しましょう”